



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 6 (通巻313号) 1993年6月

理事会報告

4月22日(木)

(一)1992年度決算書承認

4月8日付理事会で仮承認の1992年度決算書について、
4月12日(月)の総務委員会を経て正式に承認した。

(二)1993年度予算案決定

一部未決定の事務局長の給与と先の理事会で決定のその他の項目を再確認し最終予算案を決定した。

(三)先の理事会(4月8日)で決定した規約改訂案の一部に加筆し、最終理事会案を決定した。

(四)1993年度定時総会次第を確認し、当日の司会を高橋総務委員長が行うこととした。

ヒ市の中心部にある見本市会場で開催される。参加予定の出版社および出版関係の業者はおよそ500社、ドイツの最大手の出版グループであるベルテルスマン、フィッシャー、ドレーマー、ホフマン&カンベンなどが出展するほか、米国、英国、フランス、イタリア、その他各国から出版社や書籍関係の公的団体の参加が予定されている。

ドイツ全国の書籍業者で作っている協会、ベルゼンフェラインは書店のための特別展示を後援することになっており、店舗設計やソフトウェアの専門家に向けた内容のものも含まれている。この展示のターゲットとなるのが、以前は東ドイツにあった同業であることは明らかである。

今年のライプツィヒ書籍見本市の週間には、第5回ドイツ図書館大会も開催される。これは、統一後初めての大会で、世界各国からおよそ2500人の図書館員がライプツィヒに集まることになる。見本市は、図書館設備や図書館情報を扱う業者の出展によって、いっそう活気づくものと予想される。

ライプツィヒの見本市主催者側は、今回のフェアがドイツの「東側の隣人たち」をターゲットとしたいわば東西の架け橋となることを考えている。ロシア、ポーランド、チェコ、バルト諸国からの参加もすでに決まっていると伝えられている。

—P. W. 3月29日号より抜粋—

海外ニュース

'93ライプツィヒ書籍見本市の展望

ライプツィヒの書籍見本市といえば、旧東独時代には西側からの参加は東欧と関係の深い出版社に限られていたが、ポスト共産主義の道を歩み始めた現在、文化的イベントとしての新しい書籍見本市を目指している。

今年の見本市は、6月3日から6日まで、ライプツィ

理事会報告	1	洋書輸入協会史79	3	訃報	6
海外ニュース	1	お知らせ	6	東京の坂と橋と文明開化36	7
定時総会報告	2	総代理店ご案内	6	広告	8

定 時 総 会 報 告

1993年度定時総会は5月14日(金)午後2時30分から箱根湯本・富士屋ホテル・ガーデンルームにて開催された。

正会員102社中、出席36社・委任状49社、計85社にて総会は成立した。尚、賛助会員の出席は5社であった。

高橋総務委員長(丸善)の司会により、神田事務局長の出席状況報告の後、'92年度の入会社、日本アイ・ピー・エス(株)(正会員)、VCH 出版社及び国連大学出版局(共に賛助会員)が紹介され、日本アイ・ピー・エスの宮下氏より入会の挨拶があった。又、中央洋書(株)の退会・理事辞任が報告された。

議事に先立ち、海老原理事長より大要次のような挨拶があった。

『20世紀もそろそろ終わりに近づき、残すところあと7年という時に、昨年末にはヨーロッパに EC 経済統合の巨大市場が誕生し体制固めに向かって第一歩を踏みだしました。一方、東側の政治・経済体制の行方には未だしの感はあるものの、世界が新しい秩序を模索しつつあることは間違いありません。』

国内経済をみますと、バブル崩壊が引き金となって景気の様相は大きく変わり、政府の大型景気対策が実施の運びになったとはいえ、産業界、特に流通業界には未だ厳しい風が吹いております。当面の消費動向を見ても、高級品に代わって一般品・実用品が消費の中心になって動いているという特徴が見られます。

さて、急激な円高の状況下、われわれを取り巻く環境は必ずしも良好とはいえません。1992年の書籍・雑誌・新聞の輸入通関統計では、前年に比べ134%の伸びを示していると伝えられますが、営業諸経費の増加もさらに大きく、利幅の縮小化と併わせて経営を圧迫しております。更に、出版物の内容も従来からの印刷体に加え、ここに来てCD-ROM、電子出版など新しいメディアの出現が急速に増加してきています。エレクトロニクス技術のスピードが加速の一途をたどる中で、需要の高度化と多様化が際限なく進んできており、われわれ知識・情報を取り扱う業者に対していや応なしに迫っております。

こうした情勢の下におけるJBIAの未来戦略のテー

マは「不断の改善への取組みと向上こそが生き抜くための課題」と割り切って行動していくべきだと信じます。

最後に、「知」こそより大きな価値をもつだろうと言われている新しい世紀に向け、時代先取りの精神的コミュニケーターとして、当協会こそそのパイロット的役割を果たすべきと考えています。

会員各位のご活躍、ご発展を心からお祈りいたします。』

続いて関根理事長代理より'92年度中の理事会活動について概略以下のような報告があった。

- ・日米大学図書館会議に協賛し、会員36社の賛同を得て総計215万円をJBIA名で寄付した。
- ・旧関西支部の事実上の活動停止を契機に、規約改訂委員会を設置して改訂案作成を委ねた。
- ・総務委員会の答申を得て委員会編成替えを行った。
 - (1)渉外及び広報委員会を広報・渉外委員会に統合。
 - (2)小売専門、雑誌・ニューメディア、卸及びレプの4委員会を設置し、経営研究委員会を廃止した。
 - (3)その他の委員会は従来通り。
- ・旧関西支部を平成4年9月25日を以て解散し、同年3月31日付け決算書中の現・預金の内の81%を本部に返納、残金及びその他の財産を同支部にて処分することとした。
- ・'92東京国際ブックフェア参加の海外出版社を招いてレセプションを催した。
- ・海外出版社 40社 100名/協会会員 24社 60名
- ・中央洋書の退会と前橋理事の辞意を承認、欠員理事は次点社辞退のため不補充とした。
- ・'92年度決算案、'93年度予算案及び規約改訂案を策定した。
- ・東京国際ブックフェア'94の主権者団体に参画することとした。

会期：'94年1月27日～30日

会場：幕張メッセ

次いで委員会報告に移り、総務(高橋/丸善)、会報(杉山/日本出版貿易)、広報・渉外(佐々木/第一出版

貿易)、事業(服部/国際書房)、ダイレクトリー(内藤/極東書店)、小売専門(服部/国際書房)、雑誌・NM(山川/ユサコ)、卸(柴山/洋販)、レブ(上杉/UPS)、規約改訂(石原/医学書院)及び文化厚生(吉本/紀伊国屋)の各委員長よりそれぞれ活動報告がなされた。尚、広報・渉外委から会員名簿作成、事業委から洋書まつりおよび雑誌・NM 委から SLA 講演会の協会事業化承認要請と予算要求があった。(敬称略)

次いで理事会提案の3議案が上程された。

1. 1992年度決算案。

高橋総務委員長の内容説明の後、山縣監事(内外交易)及び高橋監事(南江堂)の監査報告があり、拍手を以て可決・承認された。

2. 1993年度予算案。

高橋総務委員長より内容説明の後、拍手を以て可決・承認された。これにより、会員名簿の作成、洋書まつり及び SLA 講演会が協会事業となり、予算が承認された。尚、広報・渉外委より同時に発表された協会 PR 用パンフレット作成の企画に対しては、現段階では予備費に組込むにとどめることとした。

3. 規約改訂案。

石原規約改訂委員長(医学書院)の改訂趣旨説明の後、質疑応答に入った。さまざまな質問や意見が出

されたが、投票の「部分無効」の是非をめぐる議論が集中し、その結果「役員選出規定」の一部を修正することで意見の一致を得、理事会案は圧倒的多数の賛成を得て可決・成立した。

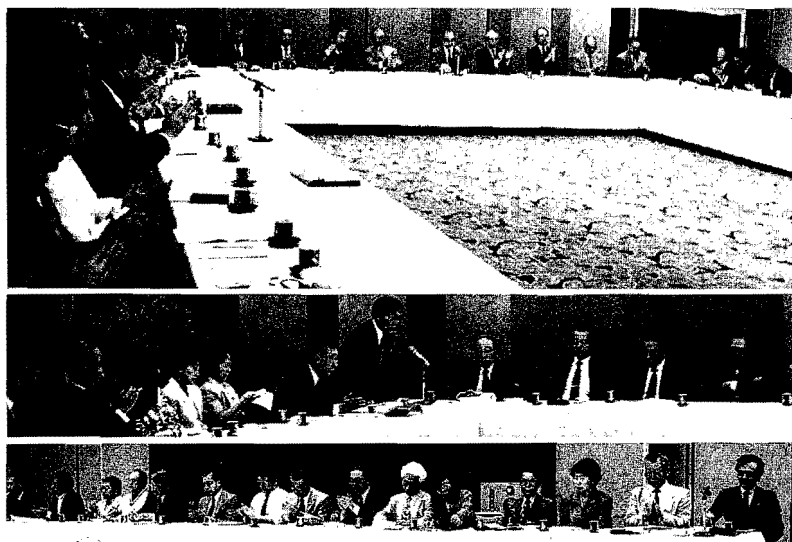
以上の議事が終了したあと、吉本理事(紀伊国屋)より大要次のような閉会挨拶があり、総会の幕を閉じた。
『一言私の所信を申し上げます。』

景気は当然回復しないと思います。ご承知のように円高ではありますが、経費は“円安”で益々嵩みます。このような状況下で、特にマルク、フラン、リラなどの通貨の専門店はその通貨のレートを自信を以て、迅速に決断することが肝要と考えます。それらの専門店が、周囲の状況に徒にとらわれることなく、主体性をもって為替の変動に対応することが会員共存・共栄の原点であります。宜しくお願い致します。

本日は総会ご出席ご苦労さまでした』

約一時間半の休息の後、別室に会場を移して丸善・中田氏の乾杯の音頭により懇親会を開き、歓談のひとつきを過ごした。尚、本年度の定時総会は初めての試みとして懇親旅行会を兼ねて開催した。出席者数は、総会としてはほぼ例年並、旅行会としては大幅増であった。翌15日には文化厚生委員会主催のゴルフコンペとテニス大会が五月晴れの下に挙行され、多数の会員が参加した。

(丸善・高橋)



総会風景

写真提供：会報委員会

洋書輸入協会史 (79)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

89 またまた輸入担保率の引き上げ（前号よりの続き）

昭和36（1961）年9月18日付で、それまで1%であった輸入担保金の比率を5%～35%に引き上げる旨の発表があった。これに対し洋書輸入協会は通産省へ、書籍及び定期刊行物の15品目およびその附属的な商品のうち、あるものは5%でありあるものは35%であるのは事務処理上大変繁雑であるから、これらの全品目を一律5%として輸入業務を円滑にして貰いたい旨の懇請書を、9月27日に提出した。

89.5 輸入担保率引き下げの懇請書に対する反応

9月27日に懇請書を提出した折りの通産省の係官の話では、ここのところ担保率を引き下げてくれという陳情が殺到してきており、近々それらの検討が始められるが、輸出の原材料となる輸入品の方が優先的に考慮される方針であるので、書籍・雑誌関係の方は現段階では何とも返事しかねるとのこと。いずれにせよ近々のうちに（1ヶ月以内ぐらいに）この問題が解決する見込みはないように受け取れた。

それにしても、この当時の昭和36（'61）年から32年を経過した今日、国際収支の黒字を抱え込んで悩んでいる現状から考えると、古い私のメモの中から見出された「輸出の原材料となる輸入品の方が優先的に考慮される」という当時の政府の方針は、そこばくの感慨をもたらすものである。

10月12日の理事会では、海外出版貿易の高木氏から、同社の社長が入手した特別の紹介状を携えて通産省の次長を訪ね陳情した旨の報告があった。それによれば、次長は係官（折悪しく担当の人が居なかったので代りの人）を呼んでくれその人に説明、親切に應對してくれたが、結局「担保率の検討はこれから始めるから結論はもっと後になる。矢張り輸出の原材料となる輸入品に対するものが優先的であるとして、書籍・雑誌にはあまり同情がなかった」由である。

その後も時々通産省に打診を行ったが、「見込みなし」の状態が続いていた。

89.6 書籍及び定期刊行物の全品目に一律5%が適用される

昭和36（'61）年も押し詰まって12月の中旬になると、急に情勢が好転、12月27日付のJBIA No. 146で次のように会員に知らせることが出来た。

記

12月20日付JBIA No. 145号にてお知らせ致しました担保率改正につきましては、さる12月25日付通産省告示により、「書籍及び定期刊行物」の全品目に対し、一律5%が適用されることになりましたのでお知らせ致します。（以下略）

89.7 担保率その後

以上の経過で担保率は「書籍および定期刊行物」の全品目が一律5%ということで落着し、この状態が約1年続き、昭和37（'62）年12月18日には、カレンダーなどの一部を除き1%に引下げられ、これが昭和39（'64）年3月18日まで続く。これらの経過はまた稿を改めて記述することとしたい。

90 昭和36（1961）年度の海賊版

90.1 Beilstein

4月27日の理事会で、東京科学振興社と名乗るところからBeilsteinの海賊版が刊行されているとの情報が審議され、同社の所在が不明のため毛利弁護士に連絡することとなった。その他にも若干の情報があつた。

90.2 Metals Handbook

昭和37（1962）年3月14日の理事会では、日本技術図書という所が、Metals Handbook（1961）、Fan Engineering（1959）などの無断リプリントの広告を出している旨の情報を検討した。

91 昭和36（1961）年度（s 36、4月～s 37、3月）の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など

91.1 規約改正

なし

91.2 理事改選

5月26日の定時総会において改選が行われようとしたが、緊急動議により重任すべしとの発言があり、賛成多数により関西支部を除く現理事長並に理事は留任となった。

91.3 関西支部長交代

同じく5月26日の定時総会において、関西支部長の交代が報告され、関西支部推薦の新支部長の海外書籍貿易商会在承認された。そして出席の同社取締役営業部長、野崎氏の紹介と挨拶があった。

なお同総会にて、前関西支部長の緑書房、丹羽正之氏の支部成立以来の本会に関する御尽力に対し、慰労金贈呈の件が上程可決され、この件は理事会一任となった。

91.4 新入会員

株式会社 日米センター 広島市西魚屋町31

同東京出張所 千代田区丸の内二丁目 丸ビル791区

代表者 寺田 宏

資本金 100万円 従業員12名

創 立 昭和24年3月24日

事業の種類 外国図書、雑誌、楽譜、LPレコードの輸入販売

同社の入会は、昭和36（1961）年12月11日付のJBIA No. 145により会員に通知されている。また同社については、JBIA 会報 Vol. 3 No. 1 昭和44（'69）年1月号の6ページに紹介されている。

91.5 退会者

金原出版株式会社

昭和37（'62）年3月31日付をもって協会を退会される旨、3月20日付のJBIA No. 148で会員に通知があった。同社は昭和16（'41）年3月に作製された海外出版物輸入協会の創立時の会員名簿に金原商店として名前を連ねている協会最古参の会員であった。

91.6 会員数

新入会員一社、退会者一社のため、昭和36年度末（昭和37年3月末現在）の会員数は、前年度末と同じく58社である。

91.7 住所変更

昭和36（'61）年12月11日付 JBIA No. 145にて会員に通知

社 名	代 表 者	移 転 先
旭屋書店	早 嶋 健	大阪市北区堂島上通り3-4
北尾書籍貿易株式会社東京事務所	野 田 耕 平	港区芝田村町3-10ほたかビル
丸田書房大阪支店	大 竹 亘	大阪市都島区東野田町4-9-3青葉ビル
ノバ商事株式会社	桜 井 良 平	中央区京橋2-3
東光堂大阪支店	伊 藤 鷹 一	大阪市西区京町堀2-93京ニビル

昭和37（'62）年3月20日付、JBIA No. 148にて会員に通知

ゲーテ書房	上村富太郎	千代田区丸の内2-2丸ビル5階560区
-------	-------	---------------------

91.7 業界人事消息

(1) OTTO SCHÄFER 氏送別会

ドイツ ミュンヘンのURBAN & SCHWARZENBERG社の名物男、SCHÄFER氏の送別会が、昭和36（'61）年12月8日、本郷学士会館別館において開催された。

(2) 竹内 博氏、紀伊國屋書店を退社

かねてより洋書輸入協会理事として活躍されていた紀伊國屋書店の竹内 博氏が、12月10日に同書店を退社された旨御挨拶があった。協会では同氏の永年の御尽力に対し記念品を贈呈することとなった（昭和36（'61）年12月20日付、JBIA No. 145 所載）。

なお同氏は、昨平成4年5月30日に逝去された。

(3) ロジャース氏、米国 Wiley 社の日本駐在員となる。

昭和37（'62）年3月14日の理事会において、ロジャース氏が紹介された。

91.8 懇親旅行

昭和36（'61）年度の協会懇親旅行は、6月11日から12日にかけて、那須高原温泉の那須ビュー・ホテルに一泊で

行われた。参加人数28名。

91.9 講演会

昭和36('61)年9月28日の懇談会において、当時大きな話題となっていた「貿易自由化」につき、東京銀行調査部長の外山氏に講演をお願いした。

91.10 その他

(1) 協会野球大会を企画

同年6月、丸善の運動部長関口氏が中心となり、紀伊國屋、海外出版、洋販、日貿などから各社の野球部員各2名に委員になって頂き、協会の野球大会を企画しようという話が持ち上っている。

91.11 フランクフルト ブックフェア参加のための説明会

同年7月11日の協会懇談会に、日本交通公社より係員が出席、フランクフルト書籍展への参加につき説明が行われた。これは協会としてこの書籍展への参加を取り上げた最初の試みである。(続く)

お し ら せ

幸洋商事株式会社で次の通り代表取締役社長の交代がありました。

新：^と定 ^な縄 ^{けん}憲 ^{いち}一

旧：佐々木 茂

訂 正

前号(5月号)のJBIA DIRECTORY 1993の広告欄に一部誤植がありましたので訂正します。

誤：会員価格 2,200

正：会員価格 2,500

総代理店ご案内

㈱至成堂書店

TEL. (075)-431-2345

FAX. (075)-432-6588

Akademische Druck, Graz (Germany)

Johann Heinrich Zedler:

Grosses vollständiges Universal-Lexicon aller
Wissenschaften und Künste 68 Bande.

1993年7月20日迄 予約特価 セット¥3,035,520

(各巻 ¥44,640)

上記以降 セット¥3,665,880

(各巻 ¥53,910)

訃 報

株式会社東光堂書店会長、石内茂吉氏は、5月20日心不全のため逝去された。享年88歳。通夜及び告別式は千葉市内の千葉会堂で、石内家および東光堂書店の合同葬として厳粛に営まれ、協会員多数が参列、ご霊前に花を捧げた。

石内氏は長年にわたり協会の理事として尽力され業界の長老として協会員一同の敬愛するところであった。愛用のベレー帽をかぶったお姿がもう見られないのは、淋しいかぎりである。

本郷界隈の坂〔7〕 菊坂と菊富士ホテル(4)

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆ フランスの日本学とエリセーエフの業績

エリセーエフがパリに現れるまでのフランスにおける日本学の軌跡を少したどってみることにしよう。フランスにおける本格的な日本学は、内外の日本歴史研究者の必須文献として高く評価された『日本図書目録』(1859)や『日本切支丹宗門史』(1869)を著したレオン・パジェス(Leon Pages, 1814-1886)、パリの東洋語学校で日本語を学び高等研究院の校長となったレオン・ド・ロニー(Leon de Rosny, 1837-1914)などの学究によって大きな成果が挙げられ、また後年世界有数の東洋美術となる「ギメ東洋博物館」を設立したエミール・ギメ(Emile Guimet)の功績も際立っている。19世紀末から20世紀初頭にかけてジャポニズムが流行した中で『お菊さん』や『秋の日本』などを著して日本への関心を一層高めたピエール・ロチ、時代は少し下がるが、東京帝国大学法学部講師を務めたミシェル・ルヴォン(Michel Revon)によって1929年にはソルボンヌ大学に「日本の文明」の講座が開始され、また日本大使として赴任した詩人・劇作家のポール・クロードルなども忘れられない日仏文化交流の貢献者であった。ちなみに、日仏会館の設立は大正13年(1924)で、初代館長はストラスブール大学の東洋研究の教授で東京帝国大学で講義をおこなったシルヴァン・レヴィ(Sylvain Levi)であった。

さて1921年、たつきの当てもなくパリに到着したエリセーエフは、偶然に日本大使館員として赴任していた芦田均に巡り会って大使館で翻訳の仕事を手伝うことになり、またギメ博物館に職を得てなんとかフランスでの生活がスタートできることになった。やがて、著名な日本学者クロード・メートル(Claud E. Maitre, 1876-1925)が日本大使館や日本企業の後援で1923年に創刊した月刊誌『日本と東洋』(Japon et Extreme-Orient)の編集を担当することになり、次々と日本文学の翻訳を紹介するなど精力的な制作を行った。同誌はメートルの急死により1年で廃刊となったが、その後1925年には『アジア美術誌』(Revue des Arts Asiatiques)の執筆に加わる。単行本でも、『日本の現代絵画』(1923)、志賀直哉の『范の犯罪』などをおさめた『現代日本9つの小説』

(1924)などを刊行するが、特に永井荷風の『牡丹の客』を含めた、現代作家5人の短編集(1927)は高級文芸誌“NRF”誌上でマルセル・アルランから絶賛を博す。

ところで、当時パリにはバロン・サツマと称して、その破天荒な豪遊振りでパリの社交界を躍目させた「綿業王」薩摩治郎八というプレイボーイがいた。彼は遊びまわっただけでなく、藤田嗣治、ミロなどとも交友し、日仏文化交流に努めたことが賞されてレジョン・ド・ヌール勲章を受章した人物である。さらに、日本大使館を寄贈するという大事業にも乗り出して1929年(昭和4)に完成するが、その初代館長として就任したのもエリセーエフであった。こうして日本学者としての実績が評価されるようになって、1928年には「ルーブル美術学校」で日本美術を講義し、1930年(昭和5)にはソルボンヌ大学の「高等研究院」の講師として「日本宗教史」の講義を担当、翌年にはフランスに帰化し、次いで1932年には正教授に任命される。そして、同じ年にはハーバード大学から新設の東洋語学部長への招聘が舞い込む。

アメリカにおける日本研究の歴史とエリセーエフの果たした役割については次回に述べることにして、フランスに戻った彼の晩年の生活について今しばらく追って見ることにする。1957年、ハーバード大学の職を辞してパリに戻り、自分の家に帰ったようにホッとしたエリセーエフは、再び高等研究院教授に復帰し、しばらく江戸文学の講義をしたが、1962年持病のリウマチが悪化して退職し、夫人と静かな余生を送る生活に入った。

昭和44年(1969)には長年の日本研究の成果と日本文化の海外への紹介という功績にたいして、日本政府から勲二等瑞宝章が贈られ、また昭和49年(1974)には多年にわたる日仏文化交流への貢献をたたえて、国際交流基金によって基金賞500万円が贈与された。

1971年に夫人を亡くしてから、孤独な老人の生活を愛読書であった漱石の『三四郎』『明暗』や『それから』などの座右の書に心のやすらぎを託して、静謐の毎日を送り、1975年、ハーバード大学での彼の愛弟子ライシャワーが「エリセーエフは西洋が生んだ最初の本職のジャポロジスト」と賞賛した86年の多彩な生涯を終える。

無機化合物大辞典
Dictionary of Inorganic Compounds

Main Work

好評発売中

1992. 5400 pages. 5 vols. ISBN 0-412-30120-2 在庫特価 ¥846,000(税別)

First Supplement

今秋入荷予定

August 1993. 480 pages. ISBN 0-412-49090-0 ¥88,500(税別)

継続でご用命の節は弊社継続注文番号 MSN 91S0751も併せてご指定願います。

無機化学の全体にわたって厳選されたデータを網羅的に集録した本書は、好評を博した有機化合物大辞典の姉妹書で、データの表示は同辞典の形式を踏襲している。

本篇全5巻には、無機物質とその誘導体およそ5万件の構造、化学・物理特性、参考文献が2万1千項目中に与えられている。項目の半ば以上は配位化合物で、そのなかには特殊な領域である生体無機物質も含んでいる。有機金属化合物辞典など一連の関連辞典との重複は極くわずか(7%以下)である。また種々の索引を具備し、探している化合物を容易に突き止めることができる。

補遺が毎年刊行され、本書は無機化学に関する不可欠の情報源として長期にわたる利用が保証されている。現に第1補遺には1992年半ばまでの文献を博搜した結果、新規項目ならびに収載物質の新規データ双方あわせて都合1700項目を収載。

Chapman and Hall, GBR

ワイリー社 心理学百科事典(第2版) 全4巻
Encyclopedia of Psychology

Ed. by R.J. Corsini,

Jan. 1994. 2,600 p. in 4 Vols.

(ISBN: 0-471-55819-2/MBN: 9309595) 出版前特価 ¥75,810(概価)

通常価 ¥90,250(概価) [税別]

本心理学百科事典は、第一版の刊行以来10年、心理学のみでなく関連分野を幅広く包括する事典として定評を得て来ました。

この10年間の心理学を始め、言語、人工知能、認知科学などの領域の発達をふまえて、当第二版は、*250の新見出し項目の追加 *2100の全見出し項目のup-date *100名の新人名見出しの追加 *700名の人見出しの項目のup-date *前版に比べて大幅な増ページ等、全面的な改訂となっています。

心理学はもとより教育、社会学、言語、人類学、医療、人工知能の研究・実務に携わる方々に広くおすすめ致します。

(Wiley, USA)



日本総代理店

【本社・日本橋店】〒103 東京都中央区日本橋 2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アーケヒルズ・渋谷・錦糸町・北千住・柏・取手・土浦・船橋)・下関・八王子・大宮・所沢・新潟・札幌・仙台・盛岡・筑波・水戸・横浜・静岡・浜松・名古屋・岐阜・三重・金沢・京都・滋賀・大阪・神戸・徳島・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄・ニューヨーク・シカゴ・ロンドン

1993年6月

通巻第313号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本総合印刷株式会社